



（さめて、さつそく良くない状態だけど……
せめてこの子が残つてくれてよかった。）

愛用のアニマウェポン、短剣イドラケアを握りしめ進むレント。

この道を行く際に謎の球体から浴びせられた光、
それにより身につけていた装備の殆どが消失、
唯一短剣だけが残った。

「うおりゃああつ！」

扉を蹴破るレント。

「罨のありそうな部屋の扉のノブに触れるべからず、
可能ならば蝶番ごとやってしまえ！」

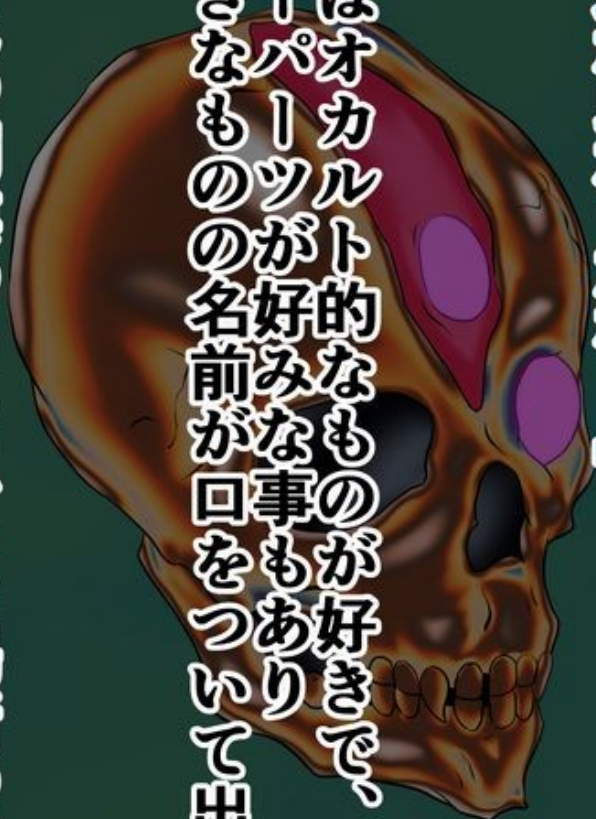
という師匠の教えを実践する、

蝶番は壊れなかったものの扉自体に罨の兆候は無し、
ならばと部屋に入ると中心に奇妙なオブジェが鎮座していた。

「……？、ブロンズの骸骨？」

鎮座する銅色の髑髏を訝るレント。

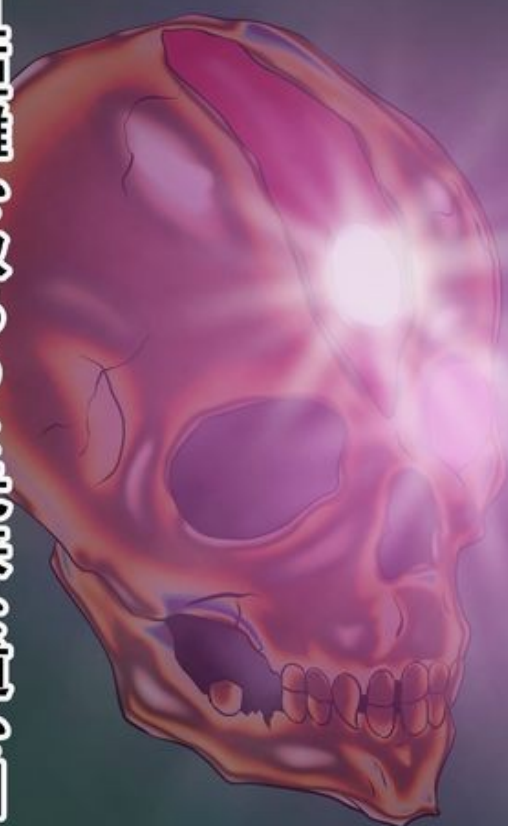
「ん、クリスタルスカルが良かったな。」



レントはオカルト的なものが好きで、特にオーパーツが好き。名前が口について出てくる。好きなものの名前が口について出てくる。

直後、銅色の髑髏の目と思しき場所の球体が発光し、髑髏を支えていた部分がグニャグニャと歪み、何本もの触手が姿を現す。

「しまった！、怒らせた！？。」



レントは一旦距離を取ろうと元来た道を引き返そうとするが、あつた筈の扉は存在しなかった、そんな動揺するレントの隙を突くように触手が殺到する。



オステオン・カルコス

銅色の觸體を冠するこのトラップは、

生前、その体を傷つければそこから触手が生え、断ち切れればそこから新たな触手が5本は生えてくるという分裂と再生に特化した能力を持つマーゴの物だった。

だが取り出した能力に残った分裂能力は落ち、断ち切られた所から生える触手の数も少なかった。



トラップとして実用に耐える物にするため、
ラクエウスはこのマーゴの残留能力に
追加で獲物を追尾し分離する自動索敵能力と、
毒を投与する能力を付与しアイテムとして仕上げた。

起動したアイテムは何本もの太い触手を獲物目掛けて伸ばす、
触手はダメージを受けて分裂するものもあれば、
獲物を捕らえる為に自動的に分裂する触手もあり、
効率的に獲物を追い詰める。



その先端には細い牙が生えた触手があり
獲物に食らいつきそこから体の自由を奪う毒を投与する。

宙に持ち上げられ体中から毒を注入され、
体から急速に力が抜け、
抵抗が弱まり、その手からイドラケアが滑り落ちる。









